

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 美和		
所在地	岡山県真庭市樫東43-1		
自己評価作成日	平成 28年 10月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373401037-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373401037-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成28年10月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

山林・田園に囲まれた昔ながらの旧家で利用者様ご自身も住み慣れた、馴染み深い環境の中で生活をしています。「土いじり」を生活の中に取り入れ、安心して心穏やかに生き甲斐を感じられ笑顔のある生活をして頂ける「介護」に努めています。地域の方々、家族の方々との交流を深めながら、利用者様を支え合い、居心地の良い施設を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

山に囲まれた静かな田園地帯に風格のある旧家のたたずまいをそのまま残し、内部を改造して設立して12年になるホームである。ここ1年で利用者の半分入れ替わり、真庭市内遠隔地からの利用者が多くなっている。互いの馴染みの関係が希薄になりがちな雰囲気を職員が懸命に支えており、明るく活気のある1ユニット9人が住んでいる。この地域の唯一の福祉施設として地域貢献と村興しの拠点となっている。現在の管理者は、初代の管理者が目指してきた「笑って人生を終わらせたい」という思いを引き継ぎ、次の代にも繋げていきたいという信念を持ち、職員をよく導いている。職員は協調性を持ち、常に笑顔で利用者に接していた。利用者の生活の中での変化をしっかりと見極める作業を徹底し、原因とその改善追求する職員間野努力が積み上げられていることを記録の中で確認する事が出来、利用者の笑顔がそのことを物語っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での理念の共有を実践している。努力の足りない部分が多く感じられる事もある。	法人理念は別に施設目標を掲げ一年間の反省を行い、その反省材料を職員間で共有、実践して次の目標につなげている。その中で利用者は明るく、笑顔で利用者が主体となって楽しんでいる様子が毎月作成している写真集でも確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方が行事がある度に声を掛けてくれる。体調や天候に左右されるが少人数でも参加している。施設行事には地域の方々と呼びかけを行い交流を図っている。	この地で唯一の福祉施設「G. H美和」は地域貢献と村興しの拠点となっている事は伝統となっている。納涼祭、花火大会、演芸ボラ、野菜作り、学校行事、公民館行事等、双方から出向き、迎える式の多くの付き合いがある。交流風景は写真担当職員が整備してホーム玄関に常設して広く紹介されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や畑仕事等、交流の中で理解してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・施設職員との話し合いの会議録を掲示、家族へ送付して報告している。要望についてはサービスに活かせるように努めている。	地域代表、市職員、法人代表、管理者、利用者とその家族一組が順番に参加して開催されている。地域代表は毎回地域の行事や周辺で覆っている災害時の道路事情など子細に亘って情報提供を行っており、地域との繋がりが拡大、強化していく要因となっている。写真担当職員が毎月写真集を作成して推進会議資料として提出して紹介しているので、遠隔地の家族からも暮らしぶりをよく理解した上での要望や質問、感謝の気持ちが毎回発言されている会議記録を確認する事が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・真庭市グループホーム連絡会議・久世地区ケア会議の場に於いて連携を取り合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、久世町包括ケア会議3ヶ月に1回、真庭地域包括ケア会議月一回開催に参加し、互いに理解と連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無施錠を常に心がけているが、危険性があれば個人的にリスクに沿った対応をしています。	身体拘束、虐待については勉強会を行い、共通認識を深めている。日常の暮らしの中で起きる危険性の高い移動動作や瞬時に起こる転倒などに対し、細かく話し合い、原因、対策を記録に残していきながら、ケアの在り方を職員間で考案し、実績を積み重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・職員会議の場で時間を作り、話し合いの場を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで活用をしたことがないが、市などの研修があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項等を説明している。改定時には文書で連絡を入れ、来初時に口頭説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において利用者や家族から意見を聞いています。	市内でも遠隔地からの利用者が多くなり、訪問困難な家族も増えてきている現状の中で、利用者の日常の様子を、毎月「美和だより」に写真満載で届けているので、訪問しにくい家族も生活の様子が良く分かり、意見が届きやすく好評を得ている。運営推進会議には利用者と家族一組が順次出席して意見交換が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営規定を掲げており、職員会議の場で意見交換しており、ケアや業務に積極的に反映させるように努めている。	毎月一回職員会議を行い、主にケアに関する意見を出し合い実践している。新しい入所者の不穏行動の対応策について、職員の提案により気分転換を図るためのドライブ、買物等の機会を増やした。ドライブ途中に従兄弟さんの家に立ち寄り、涙が出るほど喜んでもらったという事を「外出、外泊支援実施記録」の中に見る事が出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での「規約」通りに遂行されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内・外での研修に参加を呼びかけ、知識の習得に努めている。職員会議の場に於いて発表している(年/1回は必ず参加)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	真庭市のグループホーム連絡会議・研修に参加する事で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの情報を元に何を必要としているのかを観察、傾聴に努め、安心を確保し、馴染みの関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族から要望や困っていることを尋ねたり、傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時調査に於いて本人の要望を聞き取り、観察をして対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が施設内に於いて出来る事を考えながら、共通の作業を利用者同士、職員もその中に入る事で信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時に家族の思いを傾聴しながら信頼関係作りを行い、利用者を共に支えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所に行きたい、買物に行きたい等の要望があれば、無理のない程度で外出をしている。他に月/3回の外出日・月1回の近況報告の手紙・家族との外出・外泊に努めている。	月3回の計画的外出支援を確立し、それぞれの思い出の場所や行きたい所へ出掛けている。事務室に設けてある「外出、外泊支援実施記録簿」には沢山のスナップ写真と共に記録が残されている。地域の人やボランティアとの交流行事で馴染みになり楽しみにもなっている。	
21		[ 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が「場」を盛り上げたり、掛け合いながら関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援するように努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅の延長戦として捉え、施設が出来る事があれば出来るだけ繋げるように努めています。	このホームでは、職員に寄り添って爪を切ってもらっている人、仲良しの二人組がテレビでカラオケを楽しんでいる、廊下を一人で歩き回っている人、「疲れたらちょっと自分の部屋で休めるのがええんでな」と一人で居室に移動している人等で、思い思いの暮らし方が支えられている事を感じた。利用者の担当制を敷き、一人ひとりをしっかり観察していく中で、思いや意向を把握していこうという姿勢を見る事が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を尋ねライフスタイルヒストリーを作成し、職員間で把握し、生活環境に近いように支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人で出来る事をして頂き、出来るだけメリハリのある生活に取り組んでいる。日常観察で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、より細かくケアが行き届くように努め、課題・ケア内容を職員会議・カンファレンスで話し合い、三ヶ月毎のモニタリングでより良く暮らせるように介護計画に反映させている。	難解な形式の記録物は排除し、しっかり観察した生活日誌の中から、変化のあった事だけを抽出して記録に取り、その変化を着目して職員会議やカンファレンスで話し合い、計画作成担当者と担当職員がプランニングを行っている。原因の追及と対応結果を見つめる体制を作り、管理者は常に意識してプランに反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のプランに沿ったケアを行い記録に残している。気付きの点も記録に残し話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人の時々発生するニーズ・状態に対応できるように、朝のミーティングに於いて話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し物には出来るだけ参加するようにし、又、ボランティアの慰問を受けたりしながら地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望により決定し、外部医は家族が受診。受診日に日頃の様子を伝える。往診時はその日の朝、個人別の健康に関する情報をFAXし、往診時に結果や対応の指示を受けている。異常時の往診もあり、家族に報告。	ホームが山間地にあるので入所を機に協力医、提携医に変更されるケースが多い。ホームの医療関係者の連携の為に「真庭共通シート」を活用し、受診の際に正確な情報を医師に提供して、適切な医療を受けられるように支援している。24時間対応の訪問看護体制を敷き、週一回の看護訪問を受けているので、迅速な対応ができて家族と職員が安心出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週/1回の訪問介護がある。その日の朝、連絡事項の確認を職員間で行い、看護師に報告・相談し医師の指示を受けている。日常生活の中で気になることがあれば看護師に相談を持ちかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に職員が付き添い、その時に情報提供を行い、入院中は定期的に病院側・SW・家族と連絡を取り合い情報交換している。病院訪問時には担当看護師により詳しく報告を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化した時の対応の説明をしている。かかりつけ医と十分に連絡を行いながら、施設で出来るところまでは対応して行くようにしている。	重度化した時はかかりつけ医の指示を仰ぎ、家族に判断を求めている。近くに総合病院や医療機関が無い為、今後もこの姿を継続していく方針である。老衰状態まで支援しながら医師の指示で入院に至った事例はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の場で定期的ではないが、必要な時に勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災災害は年/2回消防署立会いの下、自然災害は年/1~2回の訓練を実施。マニュアルを作成している。又、運営推進会議の時に地域の方と話し合っている。	距離は離れているがホームの前は山、後ろは川という立地環境にあるので、常にこのことを意識して自然災害に対する訓練も行っている。山間地特有の人的困難はあると思うが、運営推進会議を通して地域の消防団的な組織との連携を築いておくことも突然の災害対策には必要ではないかと思えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識して心掛けてはいるが、声の質・表情が伴わない事が多く、個々反省をしながらしている事がある。十分気を付けながら努めて行きたい。	目標達成計画にも掲げ、全職員が強く認識を持って努め、評価も行っていると聞いた。その中で特にトイレ介助には十分な声掛けと尊厳を持った対応ができていることを確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を表わせるような雰囲気作り・声掛けに努めたり、言葉の出ない方に対しては選択肢により思いが出せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々自由に過ごせるようにしているが、職員側のペースに合わせている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たいものを尋ねてみたり、その日の気候・温度を考慮したり、自分で進んで着られる方にはおしゃれを誉めてきれいに整える気持ちを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、出来る範囲内で行ったり、希望の物を作ることもある。行事の時のおやつ作り・餅つき等は時間を取りして頂いている。	毎日3食を当番職員が利用者の顔を見ながら作っている。訪問日には皆が好きだというチラシ寿司と副菜、おやつはホームの菜園で採れたさつまいも羊羹で楽しんでいた。職員が間に入り、暖かいものを一緒に食べる適度な賑わいがあり、和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分一日に1500ccを基準にしている。食事量・食事形態は個人に合わせており、全て記録に残している。摂取出来ない方に対しては「栄養補助食品」を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、出来る方には声掛けをし、出来ない方には介助をしている。夜間は入れ歯洗浄剤で清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		法人全体で取り組んでいる「おむつはずし運動」を実践している。全員トイレ排泄が実現しており、布パンツを使用して快適性を重んじている。この良い現状を少しでも長く維持して行くために簡易な筋力体操を日常のレクに組み込んでみてはどうか。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜な運動に努め、便秘解消に水分・ヨーグルト・蜂蜜・オリゴ糖摂取に心がけ、出来るだけ「下剤」に依存せぬよう努めるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとり一人の希望に沿うことは難しいが、入浴に満足して頂くために隔日にして、ゆっくりと気持ち良く入って頂くようにしている。時として合わせることもある。	隔日の実施により、ゆとりのある入浴を楽しんでいる。入浴拒否者には強制しないで清拭で保清に努めている。マンツーマンの時間帯を大切に良いコミュニケーションを心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴時間は個人に合わせている。休息できるように室内環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋の確認、職員が分からない事は医師に尋ねて、体調管理に努めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を通して完成した喜びを味わったり、出来る事をしている。行事、誕生日会など気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月／3回の外出日以外に希望があれば出掛けたり、可能な限り支援をしている。家族の方との外出・外泊が出来るように支援をしている。	居室は掃き出し窓なので気候の良い時期には芝生の庭に自由に出て楽しめる。日本庭園の散策や門のすぐ前にある菜園への往来も日常的に外出気分を味わえている。定員半分に当たる新しい入所者の不穏行動に対する職員の考案が外出(気分転換)支援となり、場所、目的、成果を記録に残していき、積み重ねる事で日常の支援にも良い成果をもたらしていると聞くことができた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいとの希望があれば、所持してもらっています。(家族に了解の上、紛失の事を考慮した金額)。所持出来る方は持ち、買物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が電話をかけて、話が出来るように支援する。記録に残している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるように壁面・花を飾るようにしている。テレビ・カラオケ等の音・排泄臭・寒暖の差・危険物等ないように配慮している。	格式高い旧家の内部を改造して造られたこのホームは、床の間と欄間の和室を中央にしてリビングがあり、錦鯉が泳ぐ日本庭園、芝生の庭、門構えの構造を残している。リビングに居ながらにしてこの風景の中に浸っていられるので、家庭的というにはこの上ない環境である。リビングは2つの食卓とソファコーナーが接近しているが、歌を歌っている人、計算ドリルをしている人、爪切りをしている人、歩き回っている人様々で活気と和やかさが溢れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になる事は難しいために自室で過ごしてもらい。利用者同士で思い思いに過ごせる空間は作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んだり、使い慣れたものを側に置いて頂くように話しています。自室に家族写真や作品を飾り、穏やかに生活出来るように努めている。	居室は構造上の面から画一ではなく、少し広い部屋と庭の風景を取り入れられる環境の部屋がある。ベッド、手洗い、脇机、整理筆筒が備え付けられており、衣類は季節毎に家族が入れ替えをしている。どの部屋もシンプルに落ち着いた感がある、明るさと清潔感があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいように、共有・自室に名前をつけている。必要最低限の必要物にして混乱や危険の回避をしている。		